



— 令和5年度全国学力・学習状況調査 — 気仙沼市の結果概要と今後の対応について

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 本市の学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和5年4月18日（火）
- (2) 調査対象 小学校第6学年全児童（14校：350人）、中学校第3学年全生徒（10校：393人）
- (3) 調査内容 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）、児童生徒質問紙調査

3 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

① 平均正答率の推移

* 令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため未実施。

* 中学校英語は令和元年度より3年に一度程度実施。

小学校正答率(%)		気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	宮城県との かい離 (ポイント)	全国との かい離 (ポイント)
国語	R5	63	65	68	67	-2	-4
	R4	62	62	65	66	±0	-4
	R3	61	62	65	65	-1	-4
	R元	62	61	63	64	+1	-2
算数	R5	55	58	62	63	-3	-8
	R4	56	58	62	63	-2	-7
	R3	65	66	70	70	-1	-5
	R元	63	64	67	67	-1	-4

中学校正答率(%)		気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	宮城県との かい離 (ポイント)	全国との かい離 (ポイント)
国語	R5	68	68	73	70	±0	-2
	R4	70	68	71	69	+2	+1
	R3	66	63	68	65	+3	+1
	R元	72	71	77	73	+1	-1
数学	R5	45	44	53	51	+1	-6
	R4	43	45	53	51	-2	-8
	R3	55	52	60	57	+3	-2
	R元	58	55	63	60	+3	-2
英語	R5	39	39	50	46	±0	-7
	R元	51	50	58	56	+1	-5

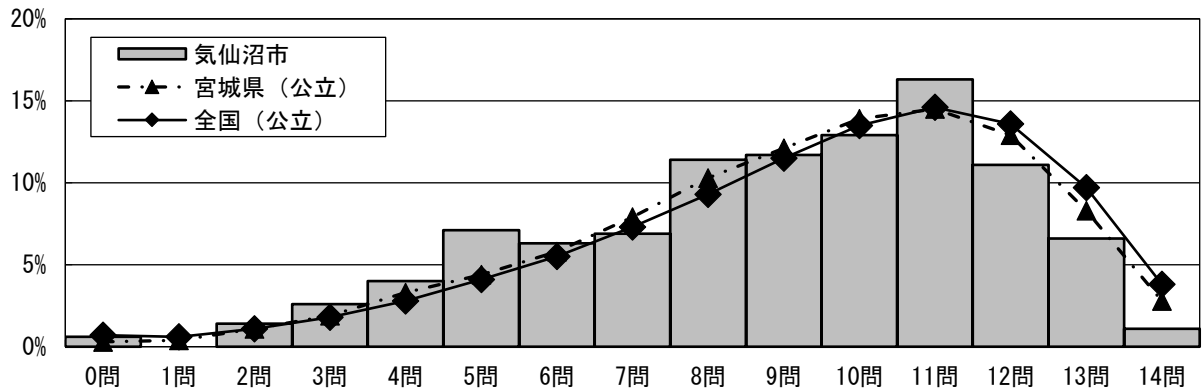
② 教科に関する調査結果の分析と対策
ア 小学校6年生 国語

○…比較的できている点

●…課題のある点

項目	全体				知識・技能				思考・判断・表現			
	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国
国語 [%]	63	65	68	67	64.9		70.1	68.9	61.9		65.1	65.5

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数 縦軸：割合) ※設問数 14 問(全国平均正答数9.4 問, 市平均正答数8.9 問)

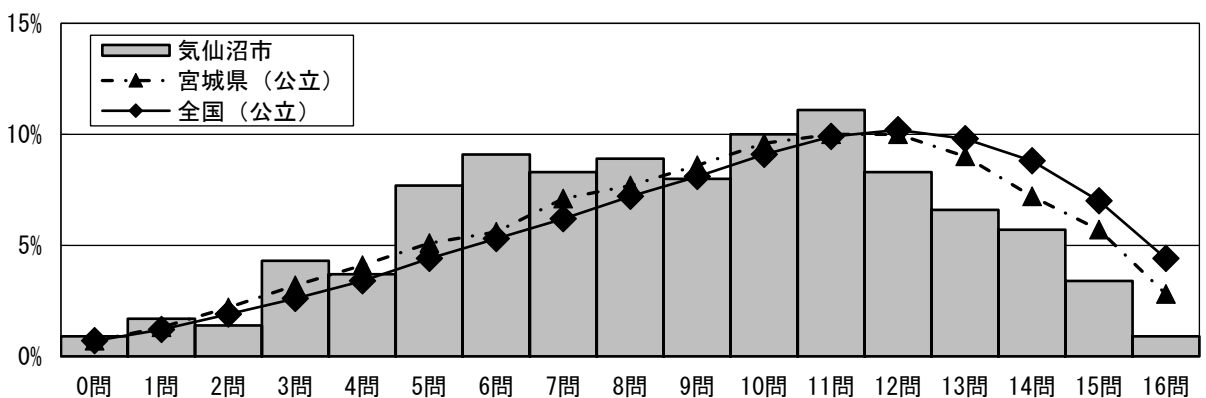


全体	平均正答率では、過去4回の調査とも全国を下回りました。項目別の平均正答率では「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに下回ります。正答数分布グラフからは、8問以下の正答者の割合が多く、12問以上の正答者の割合が少ない状況です。
問題別	○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる児童が多いです。 ●情報としての文章や図、表等の関係を捉えることや整理することに課題があります。情報の捉え方や整理の仕方、表現の仕方を知り、場面や相手、目的を意識してまとめたり、発信したりする活動を行っていきます。

イ 小学校6年生 算数

項目	全体				知識・技能				思考・判断・表現			
	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国
算数 [%]	55	58	62	63	62.0		66.6	67.2	45.9		55.7	56.5

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数 縦軸：割合) ※設問数 16 問(全国平均正答数10.0 問, 市平均正答数8.8 問)

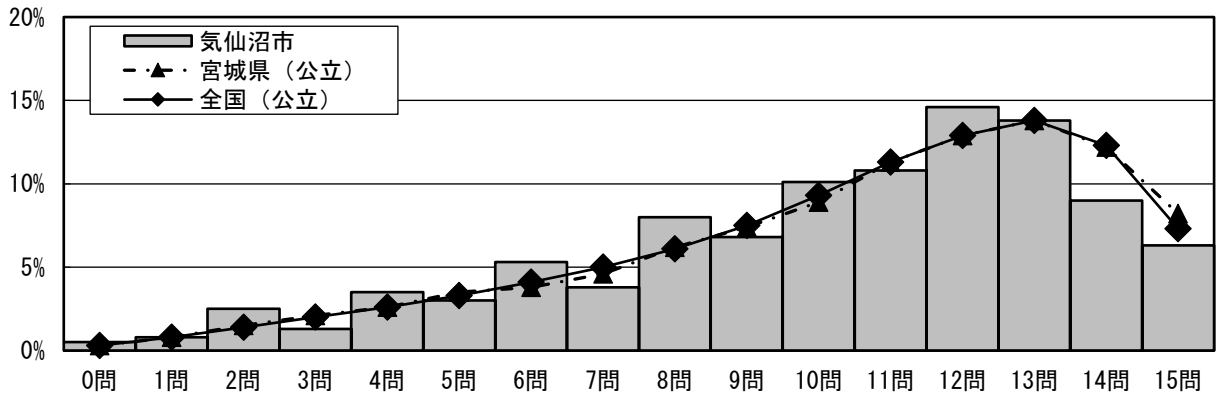


全体	平均正答率では、過去4回の調査とも全国を下回り、差が広がりました。項目別の平均正答率では「知識・技能」が5ポイント以上、「思考・判断・表現」は10ポイント以上下回ります。正答数分布グラフからは、5～8問の正答者の割合が多く、12問以上の正答者の割合が少ない状況です。
問題別	○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる児童が多いです。 ●() を用いた式や加法と乗法の混合した式の計算、場面と関連付けて読み取ることによって課題があります。四則計算や() が付いた計算の順序と立式の意味を理解するために、文章問題に取り組ませ習熟と活用を図ります。

ウ 中学校3年生 国語

項目	全体				知識・技能				思考・判断・表現			
	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国
国語〔%〕	68	68	73	70	68.0		72.4	69.4	67.3		72.9	69.7

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数 縦軸：割合) ※設問数 15問(全国平均正答数 10.5問, 市平均正答数 10.2問)

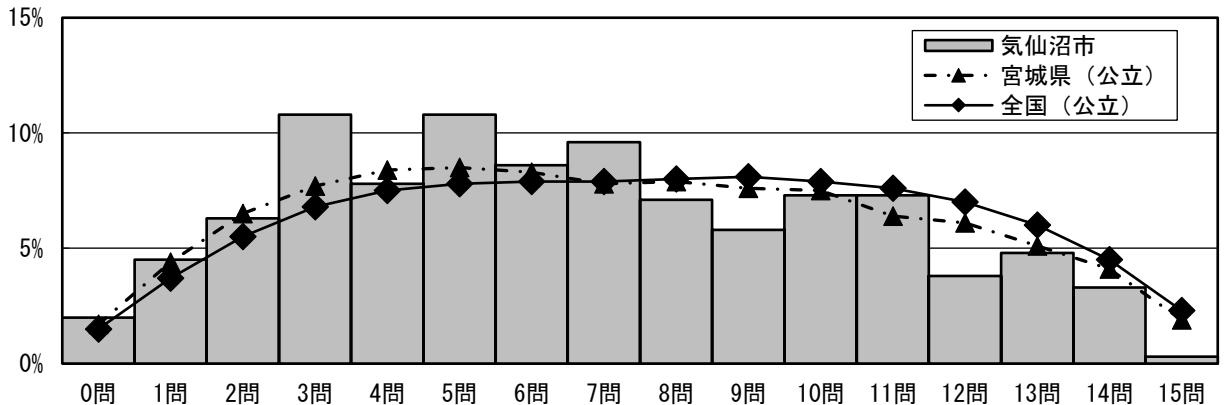


全体	平均正答率では、全国をやや下回りました。項目別の平均正答率でも「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国をやや下回りました。正答数分布グラフからは、4～8問の正答者の割合が全国よりやや多く、14問以上の正答者の割合が少ない状況です。
問題別	○文脈に即して漢字を正しく書くことができる生徒が多いです。 ●知りたい情報に合わせて効果的に質問することや目的に沿って自分の考えをまとめることに課題があります。日常的に自分の考えを書いたり、発表したりするとともに、総合的な学習の時間等でのインタビューや発表会でも意識して取り入れます。

エ 中学校3年生 数学

項目	全体				知識・技能				思考・判断・表現			
	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国
数学〔%〕	45	44	53	51	49.7		57.4	55.7	35.1		44.9	41.6

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数 縦軸：割合) ※設問数 15問(全国平均正答数 7.6問, 市平均正答数 6.7問)

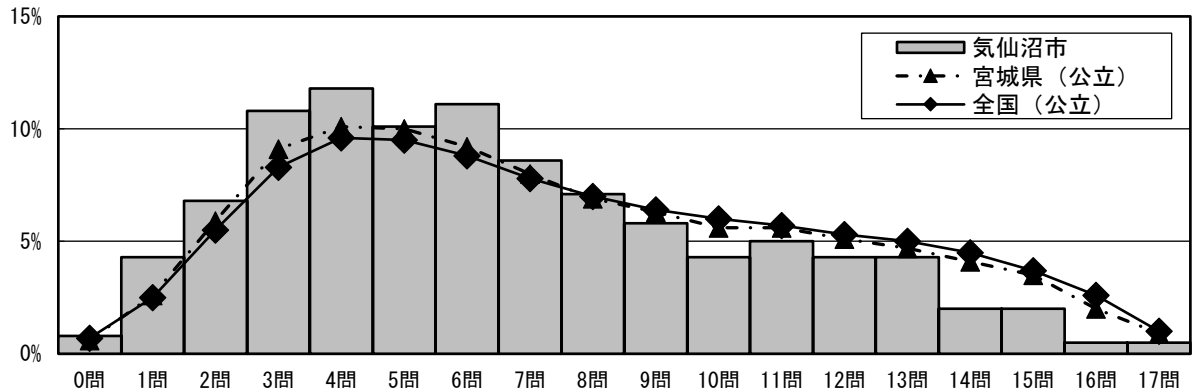


全体	平均正答率では、過去4回の調査とも全国を下回りましたが、昨年度より差が縮まりました。項目別の平均正答率では「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに6ポイント以上下回ります。正答数分布グラフからは、7問以下の正答者の割合が多く、12問以上の正答者の割合が少ない状況です。
問題別	○問題場面において考察の対象を明確に捉えて乗法や加法の計算ができる生徒が多いです。 ●式を変形したり、その理由を説明したりすることに課題があります。記述式の類似問題を解く活動を取り入れ、慣れることで苦手意識を克服していきます。

オ 中学校3年生 英語

項目 教科	全体				知識・技能				思考・判断・表現			
	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国	気仙沼市	宮城県 (仙台市を除く)	仙台市	全国
英語〔%〕	39	39	50	46	43.8		56.8	51.5	33.7		42.9	38.8

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数 縦軸：割合) ※設問数 17 問(全国平均正答数 7.7 問, 市平均正答数 6.6 問)



全体	<p>平均正答率では、全国を下回り、令和元年度より差が広がりました。項目別の平均正答率では「知識・技能」が7ポイント以上、「思考・判断・表現」は5ポイント以上下回ります。正答数分布グラフからは、7問以下の正答者の割合が多く、9問以上の正答者の割合が少ない状況です。</p>
問題別	<p>○日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができる生徒が多いです。</p> <p>●自分の考えや理由をまとまりのある文章として書くことに課題があります。語彙を増やすとともに英文の書き写しから自己表現のための自由作文など、段階的な指導とともに書く活動をより多く取り入れます。</p>

(2) 児童生徒質問紙調査結果

学習意欲，学習環境，生活の諸側面等に関する児童生徒質問紙調査から，「各教科の授業充実度」「学習一般」「学力との相関が強い生活習慣」「非認知能力」に分類し，カテゴリーごとに分析しました。

① 各項目の成果と課題 * 表中の数字は肯定的に回答した児童生徒の割合〔%〕を示します。

…全国平均を下回るもの

ア 各教科の授業充実度

- ・小6，中3ともに国語の授業を好意的に受け止めている様子が分かります。
- ・算数の授業は内容の理解ができていないと捉えている児童が多く，教科の調査結果と結びつきます。
- ・英語については活用する場面が少ない状況が分かります。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市一全国	気仙沼市	全国	市一全国
国語の授業の内容はよく分かりますか	86.4	85.7	0.7	87.6	80.0	7.6
国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	93.5	92.8	0.7	91.7	88.7	3.0
算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	77.7	81.2	-3.5	77.0	73.3	3.7
算数（数学）の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	91.8	93.3	-1.5	77.8	75.8	2.0
英語の授業の内容はよく分かりますか				64.9	63.9	1.0
英語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか				84.2	87.5	-3.3
将来，積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	49.7	52.5	-2.8	64.9	63.9	1.0
これまで，学校の授業以外で，英語を使う機会がありましたか	28.2	46.5	-18.3	84.2	87.5	-3.3

イ 学習一般

- ・授業内でのタブレット端末の活用が進んでいますので，今後は教科の学びを深める効果的な活用方法を研究し，実践していきます。
- ・中3は肯定的に回答した生徒が多く，小6は昨年度より上昇しています。本市が進めている「協働的・探究的な学習」の取組が総合的な学習の時間から各教科に広がっていることが伺えます。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市一全国	気仙沼市	全国	市一全国
5年生まで（中学2年生まで）に受けた授業でPC，タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか（週3回以上）	78.5	62.4	16.1	96.4	61.1	35.3
5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していましたか	66.9	63.7	3.2	71.9	62.1	9.8
5年生まで（中学2年生まで）に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか	78.5	78.8	-0.3	82.9	79.2	3.7
5年生まで（中学2年生まで）に受けた授業は，自分に合った教える方，教材，学習時間になっていましたか	78.5	82.9	-4.4	77.7	74.9	2.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか	78.2	81.8	-3.6	84.0	79.7	4.3
総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	83.1	74.8	8.3	90.2	72.6	17.6

ウ 生活習慣

- ・毎日朝食を食べることや就寝・起床時刻が決まっていること等、家庭での生活リズムが概ね整っています。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」を呼び掛け、家庭と連携して生活習慣の確立を図っていきます。
- ・家庭学習の取組時間は、小6、中3ともにここ数年減少傾向にあり、中3で2時間以上取り組んでいる生徒の割合は全体の6分の1程度と、全国の半数程度です。
- ・「普段（平日）読書をする」と回答した児童生徒の割合は、小6は全国よりやや少なく、中3は多い傾向にあり、日常的に本に触れることができています。「読書を1時間以上している」の回答者は「全くしない」に比べて、すべての教科で平均正答率が6～10ポイント上回っています。
- ・今年度から、ゲームやスマートフォン等の使用時間についての質問項目がなくなりました。昨年度12月に市独自で行った児童生徒質問紙調査の結果から、約半数（現小6：51.2%、現中3：44.8%）の児童生徒が1日2時間以上ゲームをしています。また、多くの児童生徒（現小6：54.1%、現中3：75.0%）が1日1時間以上スマートフォン等を使用しています。長時間のスマートフォンの利用は学力だけではなく、発達や睡眠習慣への影響があるといわれています。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市－全国	気仙沼市	全国	市－全国
朝食を毎日食べてますか	96.1	93.9	2.2	91.5	91.2	0.3
毎日、同じくらいの時間に寝てますか	79.7	81.0	-1.3	82.1	78.0	4.1
毎日、同じくらいの時間に起きていますか	90.1	90.5	-0.4	91.0	91.3	-0.3
家で自分で計画を立てて勉強していますか	73.5	70.7	2.8	65.9	55.0	10.9
学校の授業時間以外に、普段（平日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（小6：1時間以上、中3：2時間以上）	61.6	57.1	4.5	17.3	33.7	-16.4
普段（平日）読書をしますか	73.4	75.5	-2.1	71.1	63.2	7.9

エ 非認知能力

- ・自己肯定感は児童生徒ともにここ数年上がっていますが、依然として全国より低い値です。教員が児童生徒のよさを積極的に認めるとともに、地域の方々との交流や学習の機会を設けるなど、自己肯定感を高める積極的な関わりを一層進めます。
- ・人の役に立ちたい、地域や社会をよくしたいという思いや意欲を持つ児童生徒は、継続して多い状況です。実現に向けた話合いや行動ができる場を設定し、更なる向上につなげていきます。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市－全国	気仙沼市	全国	市－全国
自分には、よいところがあると思いますか	81.6	83.5	-1.9	75.0	80.0	-5.0
将来の夢や目標を持っていますか	80.0	81.5	-1.5	68.0	66.3	1.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.0	76.5	1.5	82.2	77.6	4.6
人が困っているときは、進んで助けていますか	89.6	91.6	-2.0	88.7	88.1	0.6
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.3	95.9	0.4	95.3	94.6	0.7
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	75.4	76.8	-1.4	69.5	63.9	5.6

4 今回明らかになったこと

これまでも学力向上のために様々に取り組んできましたが、改めて本調査で以下の課題が明らかになりました。

- (1) 基礎的な学力を活用する力の不足
 - ・ 算数・数学、英語は全国を下回る状況が続いており、全国との差が広がりました。すべての児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、活用力向上を図るため習熟度等に合わせた個に応じた指導が更に必要です。
- (2) 教員の働き方改革の必要性
 - ・ 児童生徒数の減少による学校の小規模化に伴い教員数は減少しています。そのため、協働の授業づくりや教員間の研修が難しくなっています。また、教員一人あたりの負担が大きくなり、教員が子どもたちと向き合い、授業準備をする時間の確保ができていません。
- (3) タブレット端末のより有効な活用の必要性
 - ・ タブレット端末の活用が進み、一層教科の深い学びや理解につながる活用の研究と実践が必要な段階にあります。
- (4) 家庭学習時間の減少
 - ・ 家庭学習の取組時間が以前に比べ減少し、規則正しい生活習慣の確立やスマートフォン等の適正な使い方と併せて、家庭学習の習慣化や質の向上を、家庭と連携して進めなければなりません。
- (5) 自己肯定感の伸び悩み
 - ・ 自己肯定感等の非認知能力を一層向上させるために、教員だけではなく交流の際の地域の方々からの声掛け等が大切になります。

5 学力向上への取組

上記の課題を解決するために、家庭・地域と学校との連携を図り、以下の学力向上対策を進めてまいります。

- (1) 算数・数学の学力向上
 - ① 進級・進学前の総復習等の重点的な指導や繰り返しの指導、日常の事象と結びつける活動や具体物を扱った算数的な活動を取り入れ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と学ぶ楽しさを感じさせる工夫
 - ② 本調査問題を含め発展的な問題に授業内や週末課題で取り組ませ、活用力の伸長と意欲、挑戦意識を向上させる工夫
- (2) 英語の学力向上
 - ① 英語で自分の考えを書く、ペアやグループで話す等、生徒の英語使用量を増やす授業づくり
 - ② 授業以外にALTやオンラインによる英会話の機会拡充
- (3) 個に応じた授業等の充実
 - ① 基礎的な学力の確実な定着
 - ・ 習熟度別授業やティーム・ティーチング授業の拡充
 - ・ 放課後学習会やタブレット端末を活用した個別選択課題への取組
 - ・ 単元ごとや長期休業前等の定常的な学び直しの設定
 - ② 活用する力の伸長
 - ・ 身に付けた知識・技能を活用する発展課題に取り組ませる場の設定（授業、放課後学習会、家庭学習）
 - ③ 授業と連動した課題の工夫やタブレットドリルの活用と予習型家庭学習による家庭学習の習慣化
- (4) 質の高い授業を実践するための環境整備
 - ① 教員の時間確保
 - ・ 1日あたり通常6時間授業となっていますが、1時間減らして5時間授業の日を多く設定することや教員支援体制の充実を検討し、教員が児童生徒と向き合う時間、教材研究や授業実践研修の時間確保
 - ② 学校図書の実践
 - ・ 読解力や表現力、感性等を高める読書の習慣化に向けた図書の充実
 - ③ 教員研修の実践
 - ・ 教員の授業実践力向上に向けて、指導者用デジタル教科書の拡充や先進地研修・県総合教育センター研修等への参加